

膝 MRI 第 4 版

新津 守・著

【評者】 青木隆敏 (産業医科大学教授・放射線科学)

MRI は関節疾患診療において不可欠な画像検査法であり、中でも膝関節は MRI が最も頻繁に活用される部位の一つである。スポーツ診療における MRI の重要性はいうまでもないが、人生 100 年時代を迎えた今日、膝関節の健康維持や変性疾患の評価においても MRI から得られる情報の価値はますます高まっている。本書は、膝関節 MRI の解剖、撮像法、疾患別画像診断を体系的にまとめた実践的な専門書であり、膝関節 MRI 診断に必要な知識を網羅した珠玉の一冊である。

まず正常 MRI 解剖が整理され、続いて膝関節の固定法や撮像法、さらには診断上のピットフォールについて簡潔に解説されている。読者は診断に不可欠な基礎知識を身につけた上で、病的所見の理解へと進むことができる。病的所見については、靱帯、半月板、軟骨、滑膜などの構造別の病変に加え、骨折・脱臼、関節液貯留、若年者に特徴的な膝疾患などが取り上げられ、豊富かつ質の高い画像とともに、病態と MRI 所見との関連がわかりやすく解説されている。典型例の提示にとどまらず、診療方針との関連や読影時の注意点につい

B5 判・344 頁
2026 年 4 月
定価：7,700 円
(本体 7,000 円＋税 10%)
ISBN978-4-260-06484-2
医学書院 刊



ても丁寧に記載されており、日常診療に直結する実践的な内容となっている。

本書は、長年にわたり膝関節画像診断の研究・教育を牽引してこられた新津守先生による単著であり、その深い学識と豊富な経験が凝縮されている。初版刊行以来 20 年以上にわたり改訂が重ねられ、今回で第 4 版を数える。各改訂版では最新の知見や高品質な MRI 画像が積極的に取り入れられ、新たな疾患概念も追加されてきた。また、膝関節 MRI 診断に関する幅広い知識を集約した専門書でありながら、「忙しい現場で目を通せる」という初版以来のコンセプトが貫かれており、箇条書きを活用した簡潔な記述と視認性に優れたレイアウトが維持されている。今回の改訂第 4 版では、新たに約 400 点の示唆に富む MRI 画像が追加されるとともに、著者の豊富な経験に裏打ちされたコラムもさらに充実した。読みやすさと専門性を高いレベルで両立した本書は、経験の多少を問わず、膝関節診療に携わる全ての医師に推薦したい必携の一冊である。